オレたちも労仂者

手をつなぐ青年たち

新港町青年会をたずねて

港務所交部新港地域分会には、地域の青年男女を中心に結成されている新港町青年会がある。昭和三七年に結成されていらい、さまざまな行事や機関紙発行などを通じて、おたがいの学習と〝おやじ〟や〝おふくろ〟たちのたたかいを理解し、外部との交流をすすめている。

知らぬ者どうしが

青年会は現在一二名、男女半々ずつである。男のうち三池労組員は三川、港務などの三名、他はそれぞれ転についている。女子会員もハタ織りや家事手伝い、中小企業などについている。

斗争後まもなくの三七年夏、それぞれの生活に流されがちな青年たちの生活の中から「おれたちも労仂者なのだ。ひとつ集まって学習会でもはじめよう」という発起人の呼びかけで、毎週水曜日に集まって学習会やコーラス、フォーク・ダンスなどをはじめた。

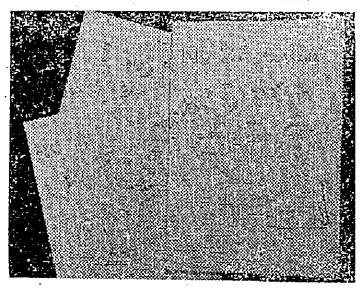
また月に一度、全員でハイキングやゲームをやる。今年一年の行事歴からひろってみると、一月は初日の出を見るため大みそかから三池山登山、三月には梅見、四月には桜見、七月は口ノ津へキャンプ、年末にはクリスマスパーティなどの楽しい行事もくんである。

三年つづく文集

〝いしがき〟

毎週水曜日の集会日には、だいたい次のような行事がおこなわれている。第一水曜日＝学習会、第二水曜日＝〝いしがき〟討論会、第三水曜日＝文化行事（ダンス、コーラス、ゲームなど）、第四水曜日＝一カ月の集約と来月の行事うちあわせ。

青年会の文集〝いしがき〟は廃刊いらい三年間、毎月一号ずつ発行され、一一月までで二七号をかぞえるまでになっている。会員の生活からにじみ出た、かずかずの感想が、それぞれの筆で盛られている。



（上）新港町青年会のメンバー。（下）毎月発行されている〝いしがき〟

家庭生活を高めるために（1）

石川保

はじめに

三池主婦会のみなさんたちが、今年の運動のすすめ方のなかに、家庭の民主化をとりあげられていることについて、とてもすばらしいと思います。というのは、ただ「助け合う」とか「円満に」ということだけが表にでて、その方向なり、考え方がぬけていたからです。

私のかくことが少しでもみなさんの運動の〝ささえ〟にでもなれば、大変しあわせだと思います。

子どもと愛国心

よく聞くことばですが、このごろの子どもに「愛国心」や「道徳心」がうすいといいます。また「親のいうことを聞かない」とか「しつけがたりない」といいます。これらは同じところから出ていることばです。これを、もう少し深く考えてみますと、

1、愛国心とか、道徳心を強くのぞんでいるのは、どんな人たちなのか。なぜこういうことをいうのだろうか。

2、そのような愛国心や道徳心をあなたはどう考えているか。あなたの考えと、どの点が同じで、どの点がちがうのか。

ということになります。では私たちは、いまどんな人間、どんな考え方をもつ子どもにしたいと思っているのでしょうか。あなたの頭の中のどこかに、子どものころ学校で習った修身教育、親からしつけられた家庭生活の習慣が、根づよく残ってはいないでしょうか。また親と子どもの関係を、どうあなたはとらえていますか。これらを明らかにしてかからないと、方向がないものになってしまいそうです。

昔と今の家庭生活

戦前の家庭生活を考えてみましょう。さまざまな日本の家庭の〝むじゅん〟から眼をそらせるために、「父母へは孝」「兄弟は仲よく」「夫婦は和合」という切り札で、時の政治を動かす人たちはいってきました。そして、そうあることがあたり前であって、そう考えない人は悪者だときめつけてきました。今でもそう考えている人が、私たちのまわりに数多くいることに気づきます。

（筆者は大牟田市教組書記長）

私のラブレター

三川支部　古閑久代

私が彼に手紙を書き出したのは、先月の末ごろからだった。その理由は？と尋ねられると、少々面わゆくてここでは説明できないが第一信、第二信、第六信と次々に書き送っているうちに、習慣というのか、馴れというのか、毎日手紙を書くことが私の日課となってしまった。

便箋に二枚だったり、一枚だったり、ときには六枚にもなって、「これ、一〇円で行くかしら？」と心配したりもする。だが、封筒の部厚いほど彼が喜こぶと思ったら、下手な文章ながら、つい長々と書いてしまうのである。

毎日、なにごとかできたのかと同室の患者さんたちに心配かけたようだが、いまはもう、きっと馴れっこになってくださってることと思う。

日記をつけるような気持で書く手紙なので、若い昔のような甘いレターにはならないが、それ以上の厳とした夫婦の愛情がペンを通じてお互いの心に通い合うから妙である。私と違い手紙を書くことが大嫌いだった彼に、返事を期待はしないけど、ひょっとしたら…という気持ちはいつも持っている。だから外出するたびに、彼の手紙が郵便受けに待っているような気がして、自然と足も早くなってしまうのである。

私の出す手紙の内容により、返事はあったり、なかったりする。筆不精の彼が手紙を書いてるようすを想像したら、ちょっと気の毒みたいな気もするが、彼はそれで結構たのしいのだそうだから、私も手紙は続けようと思っている。

妻の手紙を読んで返事を書く。ただそれだけの間でも、入院中の無聊を慰められるというのならこんなに安くて心のこもった見舞品が一体どこにあるだろうか…。

明日は第七信になる。今度はちょっと趣向を変えて、美しい花もようの便箋に書こうかなと思っている。毎日毎日のことなので、種が尽きそうなものなのに、相手が彼である気安さは、気兼ねも何もいらないから思ったままがいえるし、グチも書ける。私が屁をへったことでも書けるのである。

彼が退院するころには、相当なものになっていよう。だが退屈なときは、何度でも取り出して読むといっていたから、手垢のついたボロレターになっているかも知れない。

でも私は、彼がくれた返事とともに、愛の便りと名づけてやろうと思っている。

〇〇特別立法

臨時国会へ提案

三川大爆発後何らの責任をとらない会社・政府に対して、中毒患者の血のさけびである「特別立法」を要求して、一一月二五日患者家族代表二〇名が上京した。

＝俳句＝

四山・内運

松元三男（望仙）

売出日寒風衝きて列に立つ
長期抵抗明け暮れ新春迎う
港沖通勤に踏みて息白し
昇坑夫に潮風寒く肌を刺す
初霜や港沖道薄化粧

高校生がみた 三池炭鉱〔4〕

法政高校　二年一一組

「斜陽産業」の宣伝

また南朝鮮が現在経済的に非常に困っているが、それも、戦前の日本独占資本の独善的な行為が現在影響しているとはいえないだろうか。

隆盛を誇った日本は第二次大戦で敗れ、日本国民全体が負けたとされてしまったが、それは日本帝国主義の敗退だった。戦後、日本の民主化は進められてきた。その中で炭鉱の姿はどうであったろうか。重工業を中心とした戦後の復興には石炭が必要であった。しかし労仂者たちの生活は民主化からはほど遠いものであった。そしてその生活は一般人の生活に比較して非常に低いものであった。近年石炭斜陽がいわれているがいわゆるエネルギー革命によって動力源は石油で、石炭の時代は過ぎたという理論である。われわれが注目しなければならないのは斜陽産業であるべき石炭の生産量は増加しているし、現にそれについての計画は政府から出ている。こういう事実は一体何を意味しているのであるかという点である。それは斜陽産業という名目のもとに合理化を行ない、より多くの利潤を得るのが目的であった。そして炭鉱労仂者は労仂強化を強いられる一方である。

黄色い血

では、炭鉱労仂者はどうしたら救われるか、その点について考えてみましょう。今おこなわれている炭鉱合理化は前にものべたように、大量のクビ切りで、能率を一挙に引き上げようとするひどい合理化である。経済発展にともなって、産業の〝米〟であるエネルギーも増大する。すなわち拡大再生産方式をとって、鉱区を整理し、大きな炭鉱をいくつもつくり採炭の機械化と交通機構を改めれば、炭価はずっと安くなり石油に十分対抗していける。それについて、雇用の安定をはかるべきだ。今までは、経営者の思うままに解雇が行なわれて来た。このままでいいのだろうか。解雇されてしまえば特別技能があるわけでもない人たちにどうやって生活して行けというのだろうか。ひどくなれば血を売りに行かなければならないことが起きる。現在、献血制度強化を呼びかけ、「黄色い血」の追放を叫んでいるが、なぜ血が黄色くなるのか。また血を売らなければ生活していけないのはなぜか。その点を十分理解していないように思われる。また近代化、機械化を促進し、危険な場所で仂く労仂者を減らし、その人たちを安全な職場に配置転換すべきである。以上のようなことをわれわれはすこしでも、炭鉱労仂者の生活がよくなる方法としてあげてみた。

（つづく）

殉職者数

昭和32年	4名	8名	
〃33	3名		
〃34	1名		
〃35（三池斗争）			
〃36	17名	48名	
〃37	15名		
〃38	16名		
大惨事（11/9）			458名

お知らせ

阪急バス車掌募集

一、昭和四一年三月高校・中学卒業見込みの女子
一、基本給＝一五、〇〇〇円以上
一、寮設備あり
一、一二月二〇日までに三池労組本部にお問い合せください。

入居者募集

一、炭鉱離職者用県営住宅四戸
一、四・五畳二間、月一、一〇〇円
一、大牟田市久福木
一、至急、三池労組本部にお問いあわせください。